

ぼうさい みくまじろ



No.4

H28. 8. 22 発行

みくまの支援学校

育友会 防災研修部

スクールバス運行時の 避難場所等の確認



夏休みに入った初日（7月21日）、スクールバスの運転手さんと介助職員さんと学校（教頭・事務長）でスクールバス運行時の避難場所等の確認のため、現地調査を実施しました。

昨年度は、串本コース。

今年度は、本宮コースを

調査しました。実際にスクールバスでの通学コース



車から降りて危険箇所等を確認しています。

→ をたどりながら避難できそうな場所や危険箇所を地図上に記入しました。

また、新宮市内で地震・津波が起きたときに避難できそうな高い建物についても写真を撮りながら確認しました。



ご協力ありがとうございました!

「育友会防災アンケート」へのご協力ありがとうございました。たくさんの貴重な意見等を頂いています。後日、防災研修部会等で検討して報告させていただきます。



現地で避難できそうな場所を確認して、地図上に記入しています。



介助職員・学校 意見交換会

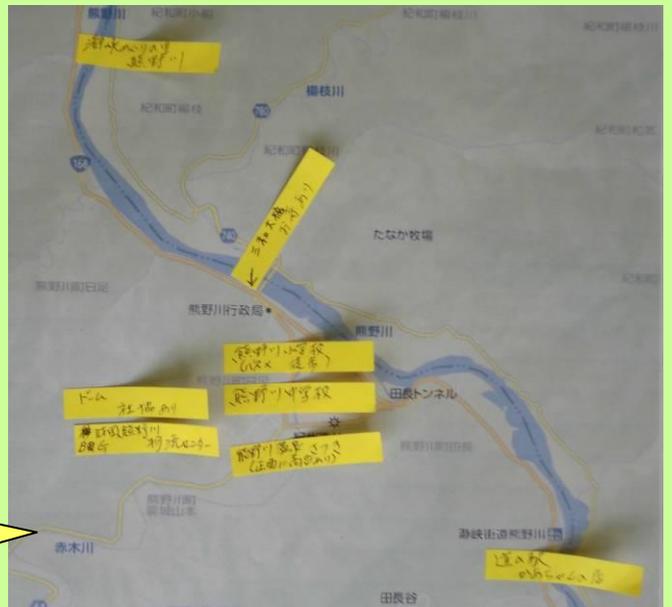
現地調査のあと学校へ戻り、避難場所や危険箇所を書き込んだ地図を見ながら今後の対策等について話し合いをしました。介助職員の方からは、スクールバス運行時の避難の困難等について意見が出されました。



スクールバス運行時の 避難マニュアル等作成へ

先日行った「育友会防災アンケート」の中でもスクールバスに乗車している時に地震が起こった時の不安について意見が出されていました。今後、マニュアル作成も含め、検討していかねばならない課題の一つです。

写真では、分かりにくいですが、避難できそうな場所を記入しています。後日、写真等の情報も追加する予定です。



みくまの方丈記 ② ～地震が一番恐ろしい～

榎本校長先生による特別寄稿です。

長明 29 歳のとき、自身が体験した大地震について「おびたしき大地震ふること侍りき。そのさま世の常ならず。山崩れて、川を埋（うず）み、海はかたぶきて、陸をひたせり。土さけて、水湧き出で、巖（いはお）割れて・・・」と記している。更に「おそれの中に、おそるべかりけるは、たゞ地震なりけりところぞ覺え侍りし。」と、地震が一番恐ろしかったとも伝えている。この記述からは直下型地震が想像される。しかし、京の都で津波・・・？ と疑問に思い調べてみると、諸説があるそうである。有力な二説は琵琶湖西岸断層帯説と南海トラフ巨大地震説。要するにまだ結論は出てないようだ。今から 800 年以上前の出来事であること。当時は情報の伝達に時間がかかること。等を考え併せると、この両方がほぼ同時期に起こったこともあり得るのではないか。

トラフ地震では大津波よりも先に必ず大地震がくる。この大きな揺れから児童生徒を守るため、みくまの支援学校では校内全てのガラス飛散防止措置や蛍光管落下防止措置、家具等の固定、セーフティゾーンの設置等様々な対策を行っている。